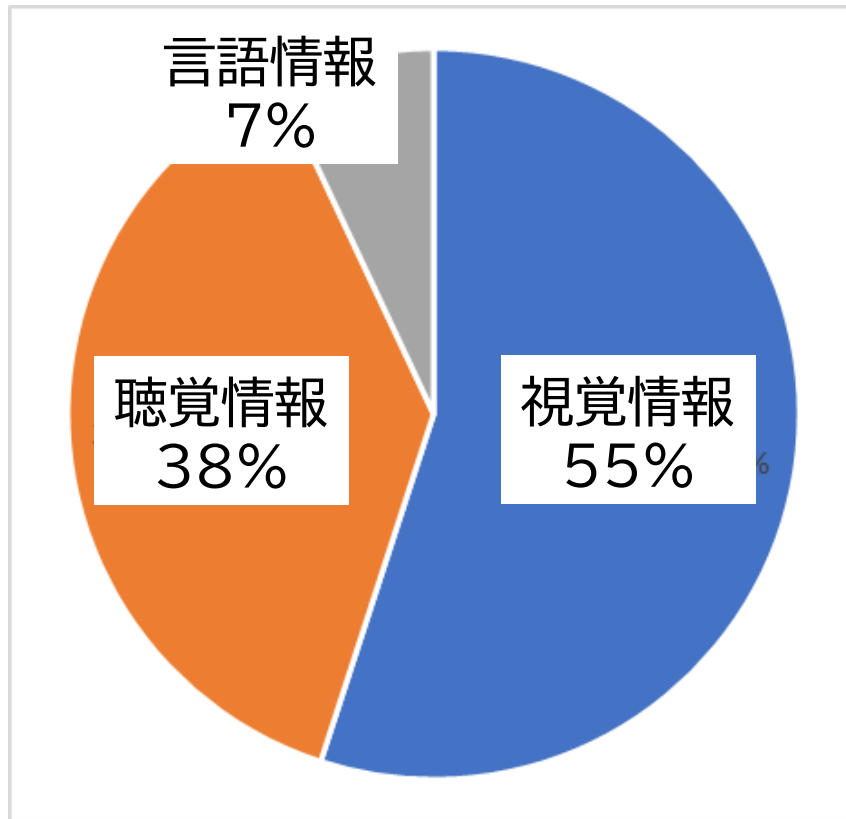


令和7年度
「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」
新たな持続的地域対応を重視した第三者評価機関
創設に向けた体制整備「評価者育成講座」

ナンバーバルコミュニケーション スキル

－ 評価者として振る舞いに関する留意点 －

ノンバーバルコミュニケーションとは



メラビアンの法則

メラビアンの法則とは、コミュニケーションにおける言語・聴覚・視覚の影響の割合を明らかにした心理学上の法則のこと

視覚情報: 表表情、姿勢、しぐさ、アイコンタクトなど

聴覚情報: 声の大きさ、トーン、話す速さ、抑揚など

言語情報: 話の内容、言葉そのものの意味

ノンバーバルコミュニケーションスキル ～評価者として振る舞いに関する留意点～

1. 評価者に求められる基本姿勢
2. 評価行動の基盤となるノンバーバルコミュニケーション
3. インタビュー場面における望ましい振る舞い
4. 観察場面における望ましい振る舞い
5. 評価・講評時の振る舞い
6. まとめ

1. 評価者に求められる基本姿勢

1-1 倫理性

- 守秘義務、誠実、公平性
- 利害関係から独立した判断
- 教職員・学生への敬意を持った関わり方

1-2 客観性・公平性

- 個人の経験を押し付けない
- 事実と解釈を明確に分ける
- 推測ではなく証拠に基づき判断

1-3 専門的力量(コンピテンス)

- 評価基準の理解
- 教育プロセス・職業教育のマネジメント・学修成果についての知識
- 面談・観察・記録・分析の技術

2. 評価行動の基盤となるノンバーバルコミュニケーション

2-1 表情

- 穏やかで自然な表情を保つ
- 無表情・険しい表情は相手を萎縮させる
- 驚き・否定の表情は出さない

2-2 視線

- 適切なアイコンタクト
- メモに集中し過ぎず、相手に注意を向ける
- じっと見つめすぎない(バランス良く)

2. 評価行動の基盤となるノンバーバルコミュニケーション

2-3 姿勢

- 前のめりすぎず、反り返らない中立姿勢
- 腕組み・足組みは否定的印象を与える
- 「聞く姿勢」が誠実さを伝える

2-4 声のトーン・話し方

- ゆっくり・落ち着いたテンポ
- 威圧的・命令的なトーンを避ける
- 相手が理解しやすい明瞭な語り

2. 評価行動の基盤となるノンバーバルコミュニケーション

2-5 距離感

- 近すぎると圧迫感、遠すぎると冷淡
- 面談場所では対等な位置取り(上座・下座に注意)

2-6 沈黙の扱い

- 話をうながすための「間」を尊重
- 焦らず、答えを待つ姿勢
- 沈黙を不機嫌と誤解されないよう柔らかい態度で

3. インタビュー場面における望ましい振る舞い

3-1 良いインタビューのポイント

- 結論を誘導しないオープンクエスチョン
- 相手の話を遮らない
- 相手が話しやすい雰囲気をつくる
(笑顔・うなずき・相づちなどのノンバーバル)

3-2 避けるべき態度

- 詰問調の質問
- 感情のこもった否定的な表情
- 腕組み・ため息・不満顔
- 自分の経験を押しつける(「うちの学校では…」)

3. インタビュー場面における望ましい振る舞い

3-3 反応の仕方(リアクション)

- 「聞いている」ことを伝える姿勢
→ うなづく／相づち／自然な笑顔
- 驚き・疑念の表情を出さない
- 相手の話に途中で割り込まない
- 沈黙の時間をきちんと活かす

4. 観察場面における望ましい振る舞い

4-1 観察するときの基本姿勢

- 講義・実習の邪魔をしない立ち位置
- 無表情・評価する表情を避ける
- 静かに・控えめに行動
- 学生を緊張させないノンバーバル(微笑・うなずきなど控えめに)

4-2 判断のポイント

- 観察は“印象”ではなく“事実”の記録
- 見たことと感じたことを分ける
- 一場面だけで結論づけない

5. 評価・講評時の振る舞い

5-1 講評のポイント(記録の原則)

- 事実と解釈の分離
- 過度な評価語(良い／悪い)を避ける
- 課題だけでなく、良い点も適切に伝える

5-2 評価者として避けるべきこと

- 相手を傷つける口調・視線
- 上から目線の態度
- 講評時の不機嫌そうな表情
- 「自校では…」 「経験上これはダメ」などの基準外要求

5. 記録・評価・講評の振る舞い

5-3 講評(フィードバック)の姿勢

- ノンバーバルは特に重要
 - 穏やかな声
 - 落ち着いた姿勢
 - 否定的な表情を避ける

- 「あなたが悪い」ではなく

「評価基準と照らして、この点が確認されませんでした」

と事実ベースで説明

6. まとめ

- ◆ 表情・姿勢・視線・声のトーンは、言葉以上に学校側に影響を与える
- ◆ 非言語が適切であれば、学校は必要な情報を安心して開示できる
- ◆ 非言語が不適切であれば、「恫喝的評価」「上から目線の審査」という誤解を招き、評価の質は低下する
- ◆ **良い評価者**とは、言語と非言語の両面で信頼を生む人材である

ノンバーバルコミュニケーションは評価の信頼性を決める